

第4回「山形空港機能強化検討会議」・「庄内空港機能強化検討会議」

会議における発言内容

■ 株式会社日本共創プラットフォーム 様

- ✧ 空港を拠点とした地域活性化を目指す「空港型地方創生」の取組みについてご説明いただきました。
- ✧ 同社としては、地域経済の活性化に貢献するため、観光資源の磨き上げや国内外からの新たな交流人口の呼び込み、多様な産業への新たな需要の創出などにより、空港における付加価値の創出を目指しているとの説明がありました。
- ✧ 具体的な取組みとして、一般の空港にはない「地域活性化室」を設置し、空港会社が地域コーディネーター・コンシェルジュとして、地域PRや地域活性化を推進するとともに、空港会社自身が能動的に地域への誘客を実施していると説明がありました。
- ✧ 空港運営においては、空港DX技術を活用し、脱属人化・安全性向上・効率性向上を推進することにより、業界をリードする空港運営を実施できると説明がありました。

■ 東急株式会社 様

- ✧ コンセッション方式（※）による空港運営や、民営化後の各空港における取組みについてご説明いただきました。
- ✧ 航空利用促進や路線誘致・観光誘致は共通の課題や成果があることから、地域関係者が課題や情報を共有し、連携して活動する仕組みが有効であるとの説明がありました。
- ✧ 地域に果たす空港の役割として、就航先への移動だけでなく、空港の特性を活用した地域活性化や空港の観光拠点化、防災拠点化が挙げられました。

※国や地方自治体が所有する空港等の公共施設について、所有権は行政に残したまま運営権を一定期間民間事業者に与える制度

■ エバー航空日本支社 様

- ✧ 海外航空会社の立場から、日本市場への取組みやプログラムチャーター便の就航についてご説明いただきました。
- ✧ 定期便の就航に向けて、インバウンド・アウトバウンド両方の施策の充実や、運賃単価の高いビジネス利用による渡航需要の確保の必要性などについてご説明いただきました。
- ✧ 地方空港への就航に向けて、航空会社、旅行代理店、自治体の役割分担や、必要となる空港設備等についてご説明がありました。

■ 一般社団法人山形県旅行業協会 様

- ☆ ツアープランナーの視点から、国内旅行者やインバウンドの動向と特徴についてご説明いただきました。
- ☆ 国内旅行者が感じる航空便の乗り継ぎの難しさや、「山形は遠い」という思い込みを払拭するため、山形空港・庄内空港における各路線を活用し、最大限滞在時間を確保できるモデルコースを提案することにより、航空便の利便性を実感できる施策が必要との説明がありました。
- ☆ 国際チャーター便の受入れに向け、入国時の CIQ の待ち時間短縮やスペースの確保、県内全旅行会社の協力による相互チャーターの確立などが求められるとのご説明がありました。

■ 佐賀県 様

- ☆ 「佐賀空港がめざす将来像 2024」の策定の背景や、将来像を踏まえた今後の展開についてご説明いただきました。
- ☆ 事業者の人材不足の深刻化やライバルとなる近隣空港の機能強化など、空港を取り巻く環境の変化を受け、将来像 2024 では、佐賀空港を「九州のゲートウェイ空港」とするために必要な滑走路延長をはじめとするハード面の整備や、CIQ と連携した審査時間の短縮、2 次交通アクセスの充実など、「選ばれる空港」となるための取組みを明記した旨についてご説明がありました。